

上条 報告

第31号

平成23年12月

甲州市教育委員会
☎32-5097

川崎市立日本民家園の見学会 見学会を開催しました

十月二十九日（土）、川崎市立日本民家園の見学会を開催しました。日本民家園には、塩山上萩原に所在した最古クラスの茅葺切妻造民家である「旧廣瀬家住宅」が移築されているほか、八棟の重要文化財を含む二十五棟が移築・公開されています。

当日は朝からよく晴れ、絶好の行楽日となりました。上条組の方々十七名とNPO家並保存会の柳通さん、宮崎教育委員長、矢崎教育委員、保坂教育長、生涯学習課長、そして事務局三名の、計二十五名の参加となりました。

途中、国立府中あたりから事故による渋滞に巻き込まれましたが、ほぼ時間通りに民家園に到着し、見学することができました。そのときの様子を振り返ってみたいと思います。

「ご多用の折にもかかわらず、大勢の方々にご参加いただき、誠にありがとうございました。」



旧廣瀬家住宅を象徴する妻壁。



佐地家門の見学風景。



園内にはスタンプラリーもありました。



ぐるぐると出入りしなければなりません。



外は晴れていても、中はこの通り暗い空間。



まずはガイドス館の見学から。



園内に入り、原家へ向かいます。

案内は、民家園のボランティアスタッフの方三名にお願いしました。女性のグループ、男性のグループ、教育委員会のグループの三グループに、それぞれボランティアが付いてくださり、時間差を設けて園内の見学に向かいました。

合掌造りの大型民家です。さらに合掌造りのうち一棟が、昼食場所となった「そば処・白川郷」です。

一口に「合掌造り」とい

っても、地域によって茅の葺き方が異なります。信越の村に移築された合掌造りは、四棟がそれぞれ別の地域に所在していましたので葺き方が微妙に異なっており、それを同時に見比べることができるのは、たいへん勉強になります。

さらに進むと、「関東の村」です。ここにお目当ての旧廣瀬家住宅があります。

旧廣瀬家の中では、ボランティアの方が囲炉裏に火を入れていました。改めて復元された住宅を見ますと、その簡素さに驚かされます。正面の軒はとても低く、見ていると見学者がたびたび頭をぶつけていました。土間は広く、生活空間としての「土座」は、むしろ作業スペースと考えたほうがよく、一日の大半を農作業に充てていたことが想像できます。



旧上平村に所在した江向家の説明を聴く。

床は土座の奥、二間に張られているだけです。ここは、手前から「ザシキ」「ナカナンド」「オクナンド」と三室に分かれますが妻壁側には高い位置に小さな窓が二つあるだけで、とても閉鎖的な空間です。ですが、一日の大半を農作業に費やし、来客や就寝のときにしか部屋を使わなかったと考えると、閉鎖的であっても生活には支障なかったと推測できます。



ザシキとナカナンド(奥)。小さな窓が2ヶ所設けられています。

旧廣瀬家住宅の見学で午前が終わりました。ボランティアの三名もここまでということ、お礼の会話をしていたところ、日本民家園の木下あけみ園長様がごあいさつに来てくださいました。平成十七年に日本民家園のボランティアスタッフとともに、上条地区の見学に来られたこともあり、その時のお話などをしていただきました。

いったん「信越の村」に戻り、合掌造りを改装したそば処「白川郷」で昼食をとりました。



木下あけみ園長があいさつにみえました。



そば処で注文をとっているところ。

昼食後、午後三時まで自由に見学していただき、帰路に着きました。帰りは特に渋滞もなく、まだ明るい時間に解散することができました。甲州の茅葺切妻造民家の発生には、不明な点が多く残されています。突き上げ屋根の付加は養蚕の振興に大きく係わっていることですが、旧廣瀬家住宅で見ただいた通り、古い茅葺切妻造民家は養蚕に適さない形態です。養蚕が盛んになる以前に、どんな産業や生活環境に影響を受けて茅葺切妻造民家が誕生したのか、多くの類例が保存されることを願っています。

